

心理実践実習

[実習] 第1学年 前期 必修 2単位

《履修上の留意事項》こころの相談センターカンファレンス以外の日は、扱うテーマ、担当教員、実施日、小グループでの実施などの変更がありうる。

《担当者名》○野田 昌道 百々 尚美 柳生 一自 富家 直明 金澤 潤一郎 今井 常晶 本谷 亮 西郷 達雄 関口 真有 上河邊 力

【概要】

2年次配当の心理実践実習IIIやIVでの外部施設での実習に備えて、基礎的な技術（心理状態の観察及び分析並びに必要な支援法）や心構えを学ぶ。また、1年次後期から、こころの相談センターでの面接場面や検査場面に陪席し、OSCE通過後は、実際にケースを担当する。そのため、こころの相談センターでの面接や検査を行うことができるように、必要な技術を習得する。こころの相談センターの実習では、実際にカンファレンスに参加し、ケースやカウンセラーの対応についての協議を通して理解を深める。

【学修目標】

心理に関する要支援者に関する知識および技能を修得し、その要点を説明できる。

要支援者の理解とニーズの把握を通して、支援計画を作成できる。

要支援者へのチームアプローチに参加して、指導者の援助過程を見学し、要支援者の同意が得られたケースでは自ら援助を実践できる。

多職種連携及び地域連携の場に参加し、基本的技能を修得し、その要点を説明できる。

公認心理師の職業倫理及び法的義務について、説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1~3	ケース担当のための基礎技術の習得	インテーク面接の実施方法と留意点を学ぶ(1)	本谷・関口・上河邊
4~6	ケース担当のための基礎技術の習得	インテーク面接の実施方法と留意点を学ぶ(2)	本谷・関口・上河邊
7~9	ケース担当のための基礎技術の習得	発達相談の実施方法と留意点を学ぶ(1)	金澤・上河邊・今井
10~12	ケース担当のための基礎技術の習得	発達相談の実施方法と留意点を学ぶ(2)	金澤・上河邊・今井
13~15	ケース担当のための基礎技術の習得	成人カウンセリングの実施方法と留意点を学ぶ(1)	西郷・本谷・野田
16~18	ケース担当のための基礎技術の習得	成人カウンセリングの実施方法と留意点を学ぶ(2)	西郷・本谷・野田
19~21	ケース担当のための基礎技術の習得	成人心理検査の実施方法と留意点を学ぶ(1)	野田・関口・西郷
22~24	ケース担当のための基礎技術の習得	成人心理検査の実施方法と留意点を学ぶ(2)	野田・関口・西郷
25~42	外部施設における実習準備1	ケースの見立て、ケースに応じた支援法の選択、事例報告などの実践力を身につける。また、こころの相談センターで実施されるケースカンファレンスへの参加を通して、ケースやカウンセラーの対応について実践的に学ぶ。	全教員
43~45	外部施設における実習準備2	外部施設における実習内容、実習課題の設定を学び、外部実習に必要な心構えやスキルを理解する。	全教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

本学の実習指導者からの臨床評価レポート等による。

【参考書】

参考書 : 指導者から個別に紹介される予定である。

【学修の準備】

事前配布資料及び実習時に作成する資料は、毎回熟読して、実習に臨むこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、下記の臨床心理学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

DP2 公認心理師に求められる心理的アセスメントや心理支援に関する高度専門技術を修得している。

DP3 エビデンスに基づく心理支援を実施でき、臨床心理学の学術研究の推進に寄与できる研究能力を有している。

【実務経験】

担当教員全員が公認心理師である。

【実務経験を活かした教育内容】

専門職としての実務経験を活かし、臨床現場に即した実践的教育を行う。